

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 愛媛大学教職大学院 連携：松山市教育研修センター事務所
コラボ研修プログラム	事業名： NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修
支援事業報告書	研修等名： 【NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修】 持続可能な学校づくり研修（坊ちゃんトーク）～だれ一人取り残さない学校について考える～
	開催日時：令和5年5月～令和6年2月 開催場所：遠隔：ZOOM 対面：愛媛大学（愛媛県松山市文京町3番） 参加人数（総数）と参加者の属性：総数（212人） 遠隔（4回・6月21日8名・8月4日10名・10月4日9名・1月30日10名）37名（教職大学院教員4名、教育委員会関係者25名、学校関係者4名、学生4名） 対面（2回・8月17・18日30名、11月4日145名）（教職大学院教員5名、教育委員会関係者9名、学校関係者113名、学生21名、民間・NPO等27名）

内容：

SDGs が掲げる理念「持続可能な社会」・「だれ一人取り残さない」は、令和の日本型学校教育や令和5年6月に出された教育振興基本計画でも示されているように、日本の学校教育で求められている目指す姿そのものである。その理念を具現化するために、学校の在り方や教員の役割の問い直しを行い、これからの教育や学校に必要なことを考える必要がある。そこで、愛媛大学教職大学院では本事業を活用し、オンラインと対面を併用した、継続的な研修を下記の通り、実施した。

①オンライン（実施日：6月21日、8月4日、10月4日、1月30日）

メインの講師を元・大阪市立大空小学校初代校長である木村泰子氏にお願いし、定期的・継続的に行うオンライン勉強会を実施した。すでに数年前から茨城県教育研修センターが行っている「Online Ed Café」を参考にさせていただき、同じようなスタイルで実施した。「学校とは？」・「普通とは？」・「主体的とは？」・「教員の役割とは？」といった、教育の本質に迫る問いを参加者が木村氏と一緒に考えて、協議することで、新たな気づきや捉え直しをすることができた。参加した教員（管理職）や指導主事からは「授業や学校生活で『起立・礼・着席』と厳しくしつけることを良しとする教員や指導やアドバイスを意に介さない教員がいることで学校運営が難しい」とか「学校全体をみんなの学校にしたいと思っても、自分のやり方を変えないベテラン教員がいると前に進めない」といった、不安や悩みを率直に打ち明け、そのことについて木村氏を含めた参加者が一緒に考え、助言していくスタイルを毎回実施した。（2月に予定していた4回目は、講師の都合で1月末に実施。）

木村氏からは、常に「子どもはそのときどう思うか。子どもが中心になっているか。」を常に問いただすことの大切さを熱意をもって伝えていただき、参加者は深く考えることができ、非常に充実した時間となっている。毎回、予定時間をオーバーしても熱心に語り合う様子が見受けられ、その学びが学校現場へ還元され実行されたり、参加した指導主事が行う研修に生かされたり、学生の視野を広げ意欲を高めるきっかけになったりしており、こちらが当初想定していた以上の波及効果があった。

坊ちゃんトーク（オンライン）は、木村氏からも賛同を得ており、次年度以降も実施することが早々に決定した。学校の本質を考える学びの波を今後、さらに広げていく予定である。

②対面（実施日：（その1）8月17日・18日、（その2）11月4日）

坊ちゃんトーク（オンライン）の学びを具現化したり、愛媛県内外に広めていったりするために、2つの対面の会を実施した。

（その1）「子どもたちが幸せになる集団づくり研修（コーチング・ファシリテーションを生かして）」

講師に軽井沢風越学園教諭・木村彰宏氏を迎え、8月17日・18日の2日間、コーチングとファシリテーションの研修を行った。日本でも数少ない国際的なコーチングの資格を持っている木村氏から、子どもたちと向き合い、寄り添うために必要な資質やプロジェクトアドベンチャーと呼ばれる集団づくりの手法など、様々な手立てやヒントを体験的に学ぶプログラムを提供していただいた。日頃、学級経営に悩む若手教員やコーチング・ファシリテーションの手法を学びたい学校関係者など、多様な参加者が木村氏の用意したプログラムで、仲を深めながら、深く話し合う姿が非常に印象的であった。本事業の目的である「だれ一人取り残さない」教育の具現化に向けて、大きなヒントを得た研修となった。

（その2）「子どもたちが幸せになる学校づくりについて語り合おう」

講師に坊ちゃんトーク（オンライン研修）でお世話になっている木村泰子さん、スペシャルゲスト講師として、日本サッカー協会副会長、FC今治代表の岡田武史さんの2人に、持続可能な学校づくりやだれ一人取り残さ

ない学校教育の在り方について、トークイベント形式で話してもらう会を実施した。県外外から140名を超える参加者を得て、対面形式で行った。フロアの参加者も巻き込みながら、軽妙に、しかも本質を突く話をされる二人のトークにあつという間に時間が過ぎていった。

木村氏、岡田氏からは「子どもの可能性を信じること」・「自律した子どもを育てる学校づくりが大事であること」・「何でも手をかけしてしまう教育は子どもたちをダメにする」・「分断にならない特別支援、共生教育の本当の在り方」など、喫緊の教育課題にも触れながら、学校現場で教員はどのように子どもと向き合えばよいかを考えさせられる濃密な時間となった。

成果： 研修後のアンケート（自由記述）

- ・とても貴重で深く、考えさせられる気づきのあるお話しばかりでした。本質を聞いた。
- ・目的を明確にして、その達成のために手段を考えることの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・自分の中にある固定観念がいかに理不尽で凝り固まっているのかを改めて感じる時間となりました。子どもを主語にした学びをこれから進めていく必要性を強く感じます。主体性を持った子どもたちが育つ学校を作るためにこれから自分ができることを実践していこうと思います。
- ・対談形式だったので、話に厚みが出て、学び多き時間となった。お二人とも目指されている所が同じで、「失敗しないと学べない」が一致していた。「存在を認める」「成長するのを信じて待つ」「ありのままの自分を出せる環境」「親は最後のセーフティネット、復元力があればいい」「気づいたら行動を起こせばいい」「エラー＆ラーン」「違いを受け入れる」たくさんの学びのキーワードを受け取りました。できるところから意識して生活していきたいと思います。

アイデアや工夫したこと：

- ・オンラインと対面のハイブリッド形式で、定期的・継続的な研修を設定することで、実践との往還ができ、学びに深まりを持たせることができた。
- ・オンラインでは毎回、テーマを設定し、自分の考えを持ち寄って悩みも含めて語り合うことで、教育の本質に触れる研修になった。
- ・講演形式の研修会では、講師の話聞くだけにならないよう、クロストークや交流の時間を取り、繋がりを創り出し、実践に生かされ、意欲的になれるように配慮した。

<写真・図など>



オンライン研修の様子



対面研修
(その1)



対面研修（その2）

